

葉っぱや木の実で

教師が葉っぱの色が変わる前から何気なく声を掛けたり、「どんぐり貯金箱」を作つて転がしながら貯めて見せたりすることで、「秋になって何か変わってきたよ。」「どんぐりで遊ぶと面白そうだな。」といった気持ちが芽生えるように、興味・関心を抱くような「種まき」をします。



ここが
ポイント

初めはダイナミックな遊びから！

「葉や実と仲良く」なるために、まずはみんなでダイナミックに遊びます。

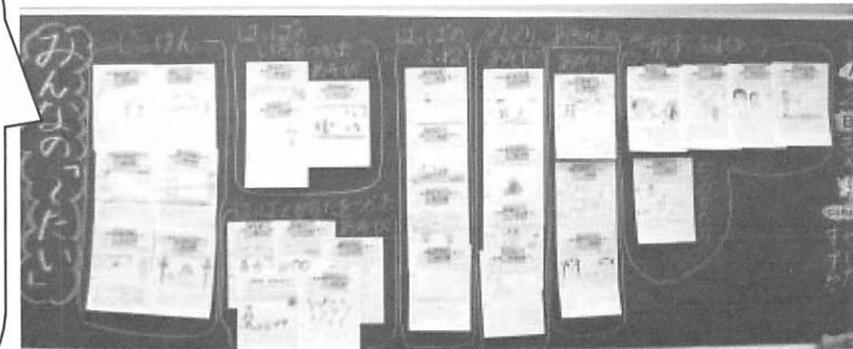
例：葉っぱの布団

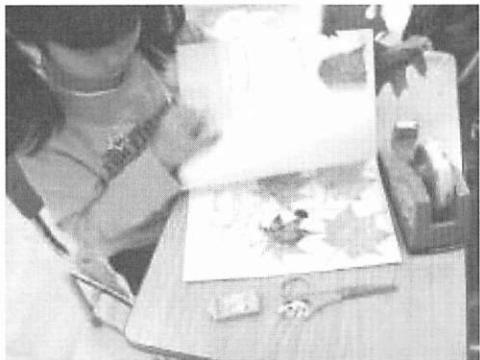
葉っぱを積み重ねてジャンプ
葉っぱ吹雪

Active

一人一人がやりたいことを書いたカードをグルーピングし、同じ遊びの人と活動できるようにすることで、自然と交流が生まれ、遊びの幅が広がります。

みんなでダイナミックに遊んだら、次は「簡単に」「現地で」できる遊びをします。したいことをカードに表現し、みんなで相談して決めます





気付き！

葉や木の実の色や大きさ、形などに着目した子に対して、大いに褒め、みんなに広めます。「色」「大きさ」「形」「におい」などの観点を示すことで、さらにじっくり葉や実と向き合うことができ、相違点等に気付いていきます。

ここが
ポイント

おもちゃ作りは一人一人の思いを大切に！

おもちゃ作りは、まずは「自分が何を作りたいか」という思いを大切にします。一人一人がおもちゃを作るという前提があつて、同じおもちゃ同士の子と交流する中で「もっとよく回すには」「ルールを工夫しよう」といった思いを生むようにします。子ども同士の関わりを大切にしながら遊びランドに発展させ、みんなで遊びます。



木の実の穴開け機を用意しておくと、子どもが自分で穴を開けられてスムーズに活動できます。



「爪楊枝じゃなくて、竹串でどんぐりごまを作つたらどうなるかな。」まずは、一人一人の思いを大切に！



あるある NG!

見栄えにこだわるのではなく、遊びの工夫に目を向けましょう。「色紙できれいに」よりも「秋を生かして」を大切に。

